

互いに学び合い、成長し続ける会社へ



当社の社員は、年に1回ボランティア活動に関わる時間をつくっています。その一環として、障がい児施設が主催するバザーにて屋台を出店していて、売上は全額その施設に寄付をします。社員にとっては何よりも、子どもたちが「おいしかった」「また来てね」といってくれるの聞くのが嬉しいそうです。

ほかには、全国の障がい児施設の皆さんを店舗に招いてお食事を開催することも。じっと座っていらなくても、大声を出し騒いでもいい空間を提供することで、私たちも勉強になりますし、障がいについて理解を深めることにも

もど料理が得意で調理師の資格を取得しており、現在はTGIフライデーズ横浜西口店で仕込み作業などを担当しています。

「4年前になりましたが、自分の経験値を積む上で資格は必要と感じ、1年半専門学校に通い調理師免許を取得しました。もともと引込み思案で周りとのコミュニケーションを取るのが苦手だったのですが、資格を武器に当社で働かせていただいたことで、自信が付き、今では周りに頼らず判断できているように感じています」(太田さん談)

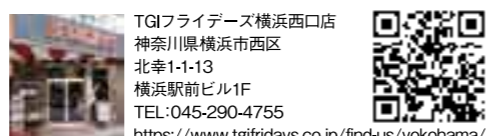
**触れ合いの時間を作ることで
双方分り合える**



(左)人材開発本部 教育部 鈴木修平さん (右)ブランド広報室 主任 江藤真見子さん

つながっています。

このコロナ禍になってから、当たり前でできたことができなくなり、今までのやり方が通用しない時代に突入しています。しかし「働きたい」という意欲を重視し、各店舗と連携をとりながら、障がい者が働くことが当たり前な社会づくりに貢献するべく、会社一丸となって受け入れる環境作り励んでいます。



TGIフライデーズ横浜西口店
神奈川県横浜市西区
北幸1-1-13
横浜駅前ビル1F
TEL:045-290-4755
<https://www.tgifridays.co.jp/find-us/yokohama/>



企業探訪

障がい者を応援、支援企業紹介

ワタミ株式会社

東京都大田区羽田1-1-3
TEL:03-5737-2288



障がい者雇用で調理仕込みを担当している太田智さん

**ともに働く仲間として
学び合い、成長していきたい**

ワタミ株式会社では、仕事を通して人間性を向上させることで、障がいの有無を超えてともに働く仲間として学び合い、ともに成長することを目標としています。外食店舗での清掃や仕込み、セントラルキッチンでの製造・荷受け、事務補助といった様々な仕事があり、それぞれの個性や得意なことを生かして配属を行っています。障がい者の方に、働く場を提供するだけでなく、グループの一員として社会に貢献し、やりがいをもって仕事に取り組める環境をつくるために、会社、家族、支援機関の3者が連携することを大切にしています。本人はもちろん、受け入れ側の店長たちも密に連携をとることで、長く働ける環境をつくっていききたいと考えています。

当社で就業している太田さんは、も



Book House Cafe

こどもの本専門店&カフェ

人と人が出会う 書店をめざして



株式会社 ブックハウスカフェ 代表取締役 今本義子さん

本の街といわれる神保町で、1万冊を超える絵本とカフェやイベント場所を併設。「子供が絵本に出会える場所」をコンセプトに、家族や子供たちが集いコミュニケーションを図れる場所を作りたいと、2017年5月ブックハウスカフェをリニューアルオープン。

東京都千代田区神田神保町
2-5北沢ビル1階
年中無休 11時~18時
TEL:03-6261-6177
<https://bookhousecafe.jp/>



インターネット書店では
実現できない世界一の絵本書店に

昔から神保町は「本屋の街」として知られていますが、街を歩く人たちはどちらかといえば年齢層が高め。小さな子供連れ家族で楽しめるような場所も少なく「本屋の街」なのに、ゆっくり絵本を選べるような書店がありませんでした。そこで、健常者家族だけでなく障がいのあるご家族でも集うことができ、この場所ですと人と人が絵本を通して繋がれるような場所を作りたいなと思いました。1万冊を超える世界の絵本を揃え、ゆっくりに楽しく選べる空間とともに飲食やイベントができる書店、ブックハウスカフェを2017年5月にリニューアルオープンしました。

子供たちと一緒に絵本を選ぶ楽しみはもちろん、書店の空間にある飲食スペースではご両親が飲食を楽しみながら、子供たちは書店内で好きなように遊んだり、本を読んだりすることができ、大泣きしても奇声をあげても叱らなくていい。人間関係が希薄になった今の時代だからこそ、ここに集まるご両親同士、子育ての悩みやお母さんの心を休める場所にしたかったと思います。

大人が訪れても楽しめるように本棚は華やかにしワクワク感を持たせ、ちょっとした遊園地にもいような遊び心を加えたことで、インターネット書店では味わうことができない世界一楽しい絵本屋さんを目指して試行錯誤しています。

子供たちの暮らしづらさ解消の鍵に「ココロノホンダナ」を開催中
絵本は子供の心の成長や発達、感情を豊かにしてくれます。発達の速度は人それぞれで、話すことや初めてのことをするのが苦手だったり、光や音を感じやすかったりと生まれ持った個性があります。発達の特徴によって社会では暮らしづらなお子さんとの違いを知り合いながら「絵本を通して楽しみを共にできたら素敵なのではないか」と、絵本セラピストやお医者様、陶芸家にも協力を仰ぎ、2年以上前から「ココロノホンダナ」という活動をスタートしています。

この活動を行うようになってから、周りが賛同し様々な縁が広がっていききました。例えば、2ヶ月に1回程度、心に響く絵本をトークとワークを交えながら紹介する絵本セラピーや、絵本読み聞かせ、小児科の先生を招いて学習障がいのある子をもった親御さん達

推薦の一冊



「バスにのるひ」
作はせがわさとみ 絵nakaban
人間の街に住むおじさんが、キツネの子を「遊びにおいで!」と誘います。キツネの子は人間に化けて、初めてのバスに乗りおじさんの住む街に向かう大冒険ストーリー。

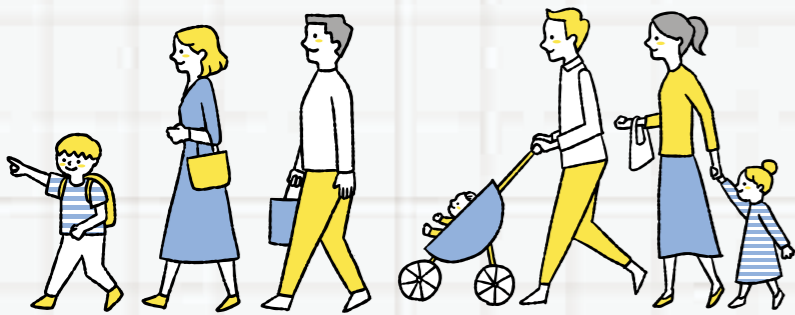
3名様 PRESENT

おやすみとおはようのあいだ(サイン入り)



詳しくは30ページ

斎藤惇夫氏を迎え今年の1月からスタートした新企画。オンライン配信はもちろん、参加できなかった会もアーカイブ配信で観ることができます。



おさんぽ DE 楽しむ!

～デザインマンホールを探して歩こう!～



東京編

調布市 ©水木プロ

青梅市

千代田区 ©Tezuka Productions

葛飾区 ©SEKIGUCHI

あきる野市

多摩市 ©INA, © 2022 SAINRIO CO., LTD. APPROVAL NO. L630189

世田谷区 ©円谷プロ

渋谷区 ©羽海野チカ/白泉社 写真提供/渋谷区

and more...

デザインマンホールってなあに?

右のデザインマンホールは台東区にある「さらざんまい」。2019年に放送されたテレビアニメのキャラクターが描かれたデザインマンホールです。デザインマンホールの種類は過去のものも合わせるとおよそ1万2千種類と言われています。現在では、「その土地土地の魅力を伝えるコミュニケーションツール」として、遠方でご当地マンホールを見にいけなくても、各自治体がマンホールカードを発行しており、無料で配られています。



皆さまに下水道への親しみを持っていただく

下水道は区民・市民にとって欠かせないものですが、施設の多くが地下に埋設されているため、なかなか関心もたれにくい事業のひとつ。そこで、多くの人に理解・関心を深めてもらいたいとの思いで、デザインマンホールの製作・設置をおこなっています。

まだまだあるよ! 全国にもまだまだたくさん

ご当地マンホールも熱い!

福岡県北九州市

長野県小諸市

山口県宇部市

静岡県富士宮市

エリアの特色を活かした 個性的なデザインマンホール

昭和60年代、当時の建設省公共下水道課建築専門官が、下水道事業のイメージアップと市民アピールのために、各市町村が独自のオリジナルデザインマンホールにすることを提唱したことからデザイン化が進みはじめました。都内でもアニメや、キャラクターを観光資源として活用している地域がたくさんあります。例えば世田谷区では、ウルトラマンシリーズを制作している円谷プロダクションが区内に創設され、作品の撮影が多数行われていたことから「親しみやすいヒーロー」として導入。あきる野市では、多摩川最大級の支流である「秋川」と渓谷の山々を描き、都内とは思えない大自然を描いた美しいデザインマンホール等、その地域に根付いたデザインマンホールが目を惹かせてくれます。

この事業は全国に広がっており、長野県小諸市のご当地マンホールは、市民が親しみを持っている浅間山の麓に広がっている高原と市章の梅を組み合わせて、色鮮やかなデザインになっています。まだまだコロナ禍で外出を控えがちですが、バラエティにとんだデザインマンホールをみつけてみませんか? きつと新しい発見があるはずですよ。

息子の笑顔が人と人をつなぐ

「いつか普通になるよ」
言われても……

「発達障害」と一言で言っても、その症状は本当に様々で、みんなの性格が違うように、その子によってすべてが異なる。うちのぼんちゃんは2歳を迎えても歩こうとしなかった。そして、言葉も出ない。お姉ちゃんであるみいちゃんは、2歳のころにはもうペラペラと話していた。比べても仕方ない。わかっているけれど、どうしても比べてしまう。

そのころ、周りから言われて一番嫌なのは「お母さんがたくさん話しかけてあげればいいんじゃない?」という言葉だった。近所の人は悪気なく、息子を見てそう言うってくる。善意なのはわかっている。でも、人一倍話す私は毎日毎日ぼんちゃんに話しかけている。みいちゃんだつて、ことあることにぼんちゃんに話しかけている。この子が言葉を発しないという事実は、そんな簡単なことではない。根本的に違うのだ。だからこそ、私はその言葉が本当に悔しくて、悲しくて、つらかった。でも、親切で言っているのがわかるからこそ、ただ笑顔を返すことしかできなかった。そのたびに深く、深く傷ついた。



よく発達障害の子に対して、「見た目じゃわからないのにね」「そんなの普通だよ」と声をかけてくれる人がいるけれど、自分の子どもが「普通じゃない」ことに気づいているママの心に、この言葉はどんな刃よりも鋭く刺さる。なにより、「いつか普通になるよ」という言葉に、心の中心で「普通ってなに?!」と何度も叫んだ。

「普通」ってなんなの? そんなことをもやもやと考えていても、ぼんちゃんは日々成長する。たしかに、ほかの子とは成長の仕方が違うかもしれないけれど、毎日、ちゃんと大きくなる。言葉も話せず、歩いて、ぼんちゃんとみいちゃんが「今日も楽しかった!」と思える毎日を通り越して、そう私は決めたのだ。一家の主は私。パパであり、ママである私には、すべての主導権がある。それなら、その権利を振りかざして、この子たちを毎日楽しませよう。

この子は、友達と仲良くできるのだろうか。果たして友達とできるのだろうか。それ以前に、社会に必要とされるのだろうか。この子は、私がいなくなったらどうなるのだろうか。考えるほどに、不安は募る。

でも、私が落ち込んだら、ぼんちゃんが元気に暮らせるはずがない。わが家が楽しくなければ、さらに落ち込んでしまう。それなら、ぼんちゃんを含め、私と姉のみいちゃんが、毎日笑っていられるように過ごすことにしよう。将来のことを考えて暗くなるよりも、毎日楽しく暮らして笑顔を積み重ねたほうが、楽しい未来が待っている。

わからないことは、考えたってわからない。それなら、少しでも前を向くために、やれることは全部やってみよう。そ



て、ぼんちゃんとみいちゃんが「今日も楽しかった!」と思える毎日を通り越して、そう私は決めたのだ。一家の主は私。パパであり、ママである私には、すべての主導権がある。それなら、その権利を振りかざして、この子たちを毎日楽しませよう。それからは、保育園の後、お友達を誘っていつしよに夕飯を食べたり、土日はできるだけ遠出したりするようにした。音楽フェスにもライブにも行ったし、お祭りとの名の付くものには顔を出し、プールに海、旅行は北海道から海外まで、子どもが低料金のうちに見せたいものは全部見せてやろうと腹をくくったのだ。ある意味、考える暇を作らない。そんな思考に近かったのかも知れない。

でも、フェスに行けば初対面のキッズたちと一緒に踊り狂い、アイドルライブに行けば一緒にサイリウムを振る。浴衣を着てお祭りに行けばおみこしに乗せてもらい大はしゃぎ、ゲーム旅行に行けば浅黒いプロレス選手のようなバス運転手さんの膝に乗せてもらい運転させてもらった。

気づけば、ぼんちゃんに「敵」はいなくなっていた。ぼんちゃんは誰にでも笑顔を振りまき、相手からも笑顔をもらえる。そして知らないうちに手をつなぎ、写真に納まり、ピースをする。時におみやげをもらい、相手は笑顔で「またね」と手を振ってくれる。そこにぼんちゃんが持た

ない分なのか、驚くほどコミュニケーション能力が高い。カフェに入ればかわいいお姉さんを見つけ、手を振りながらニコッとキラースマイル。「かわいいう」という言葉に反応するように首をコテンとかしげ、また「かわいいう!」の声を浴びる。その様はアイドル顔負け。人見知りなんてまったくなく、通り過ぎる人たちの視線を集めてはニコッと笑い、褒められては満足そうにしている。

ぼんちゃんのペースが、ぼんちゃんの「普通」

そんな表情を見ていると、先のことを毎日もやもや考えている自分がばからしくなる。この子は毎日楽しく過ごしている。それなのに、私がヘコンでいても、何もいいことはない。それなら、ぼんちゃんの歩幅に合わせて、私がゆっくり歩けばいいだけの話だと思ってしまう。その頭を切り替えた数日後、2歳と1カ月で、ぼんちゃんがいきなり歩き出した。何の前触れもなく、むくりと起き上がり、一歩、そしてまた一歩とふらふらしながら



ない言葉は必要ない。

「この子は本当にいい笑顔をしているから、きっと大丈夫」

以前、こんなことがあった。地元のバス屋さんと私とみいちゃんとぼんちゃんがおはんを食べているとき、隣の席には50歳代くらいのご夫婦が座っていた。いつもの通り、ぼんちゃんはそのご夫婦に笑顔を振りまき、遊んでもらい始めるが、その奥さんはぼんちゃんが「みんなと違う」ことに気づいたようだ。

そこで少しぼんちゃんのことを話すと、「この子はすごくいい笑顔をしているから、きっと大丈夫」と言ってくれたのだ。もし、私が少しでも暗い気持ちだった

歩いたのだ。

とんだマイペース! 自由かよ! 思わず涙が流れてしまうママを横目に、「パパチ」と手をたたき楽しそうにしている。そうだ、ぼんちゃんは、ぼんちゃんなりのペースで歩いている。それが、ぼんちゃんの「普通」なのだ。



落ち込む暇がなくなると、楽しんでやる!

ぼんちゃんが「みんなと違う」とわかってから、ふと、落ち込むことが多くなった。

り、トゲトゲした気持ちでいたりしたら、「無責任に大丈夫なんて言うな」と思ったかもしれない。でも、そのときは純粹にとでもありがたくて、嬉しくて、思わず涙目になってしまった。

そんな私を見た旦那さんが、やや戸惑ったのち、私に名刺を渡してくれた。その名刺を見ると、私たちが住む東京から少し離れた千葉の房総半島のご住所だった。どうやらその日は、知人の家に遊びに来ていたらしい。

「僕たちは房総半島に住んでいるんだけど、すごくいいところだから、3人で遊びにおいで」と声をかけてくれたのだ。まだ出会って10分もたっていないのに! その夜、名刺のアドレスにお礼と一緒に、「いつか行く際にはよろしく願います」とメールをさせていただいた。いまでも、その縁がつながり、年賀状のやり取りが続いている。

こんな幸せな連鎖は、普通に生きていても繰り返されるものではない。ぼんちゃんはいつも笑顔で私と、いろんな人たちをつないでくれる。その縁は、とてもあたたかくて、優しく、とても大切なものだ。

ぼんちゃんは、言葉を持たなくても、私たち家族に幸せを運んでくれる。この子は、そんなハッピーな素質を持っているから大丈夫。そう思うと、ふと心が軽くなった気がした。

荒川区内の福祉作業所や新施設の良さをしって、ふれて、楽しんで 福祉作業所・社協ともに創る ～障がい者レクリエーション～

荒川区では障がい者福祉作業所等・社会福祉協議会が一体となってアイデアを出し合い、障がい者レクリエーション企画「めぐろう！あらかわ☆区内スポットスタンプラリー」を実施。賞品として3種類のテーマ別ギフトを250個製作しました。ギフトセットは社協が買い取ることで売上が作業所に還元され、障がい者の工賃になるしくみとなりました。

イエローコース

障がいのある人々の自立と社会参加を目指す
イエローリボン運動(障がい者の自立)を理解・促進する黄色を基調としたギフトセット

シトラスコース

「ただいま、おかえり」がいいあえるまちへ、コロナ感染差別防止
シトラスリボンプロジェクトの黄緑色(コロナ感染差別・偏見防止を啓発)を基調のギフトセット

レインボーコース

多様性や自分らしさを尊重、生きづらさを支援
レインボーフラッグをイメージし、虹色を基調とした、明るくポップなイメージのギフトセット

福祉作業所等の新製品開発と 工賃アップにつながる取り組みを

荒川区社会福祉協議会では、毎年障がい者レクリエーション企画を実施しています。例年は会食形式でしたが、コロナで実施が困難となり代替企画を検討していました。

そんな折にコロナ禍で各種イベント中止により各福祉作業所等の売上減少している状況を受けて、福祉作業所等の優良な製品をより多くの方に知って頂き、作業所の製品向上および工賃アップにつながる取り組みにしようとのプロジェクトを開始しました。

また、レクリエーションとしては「めぐろう！あらかわ☆区内スポットスタンプラリー」として区内11カ所のスポットを巡ることで新しい施設を訪れるきっかけを作り、障がい者の外出促進につなげました。ガイドヘルパーやご家族と区内を一緒に巡り、楽しんで参加いただきました。

賞品のギフトセットは荒川区役所障がい福祉課主催「自主製品向上



それぞれのパッケージシールにもこだわりが
利用者が書いた絵をモチーフに利用者のデザイナーが作成したものをディレクション。カラフルでごちゃまぜ、楽しいギフトに仕上がりました。

デニム生地でのレインボートートバッグを製作

障がい特性を生かし、オリジナリティのある製品づくり

作業所ボンエルフでは、知的障がいのある18歳以上の方が通い、様々な工芸品を作ったり、レクリエーションを行ったりしながら、楽しく通える作業所を目指し、平成元年より活動をしています。同作業所はデニム生地を使用した手芸品と「スウェーデン刺繍」を得意としています。今回の企画で社協から「レインボーカラーの刺繍を作ってもらえますか？」と新製品提案を受けて、レインボーの刺繍に取り組みしました。

「スウェーデン刺繍」は、二重折にされた布の表面の折り目に糸を通し模様を作っていく刺繍方法で、普通の刺繍針と比べ針の先端がすくい取れるように曲がっているのが特徴です。折り込んでいく生地がデコボコしていて縫いにくいのですが、利用者の金宮博寿さんは丁寧に美しいグラデーションに仕上げてく



トートバッグはレインボー刺繍の美しさが光る仕上がりに。

新規オープンした区内施設など スタンプラリー参加施設の一部

ゆいの森あらかわ 03-3891-4349
荒川区立尾久図書館 03-3800-5821
ふらっとにっぽり 03-3801-7301

セミナー」と連携。新製品開発や作業所間コラボによる製品開発など、区内13カ所の福祉施設・団体に商品開発を発注し、梱包委託を行い、障がい当事者にイラスト作成などをお願いし、たくさんの方の福祉施設・団体・当事者が関わりを持てるようなしくみとしました。

また、セミナー講師の株式会社エーゲルの伊豆田千加氏に今回のギフトに関して各作業所別でアドバイスを頂き、更なる製品のブラッシュアップを行いました。パッケージデザインやカラーリングにもこだわり、一つひとつ手作業で創り出すことで、作り手の思いが込められたとても素敵なギフトに仕上がりました。レクリエーション企画に応募された方からも「とても素敵なギフトセットだね」と喜びの声も頂きました。たくさんの方の作業所に携わって頂きましたが、今回はその中のカフェフレンドさんとボンエルフさんをご紹介します。

荒川区初の就労継続支援A型で 障がい者雇用促進へ

カフェフレンドは、お弁当販売をメインとした福祉作業所です。同店は障がい者と雇用契約を結び当事者がのびのびと働ける場所を提供したいと考え、荒川区で初めて就労継続支援A型事業所として平成23年11月よりスタートしました。現在は10名の職員と共に営業を続けています。コロナ禍で以前と比べお弁当販売



(左)皆で協力し合い手作業でさつまいもを切っていく様子。(上)職員のみなさん。

カフェフレンド
東京都荒川区南千住7-26-2 TEL:03-5615-2101



この経験を通じて改めて職員の得意分野もわかり、今後の作業にも生かしていきたいと感じました。



工場生産に負けないいもけんぴができた。



代表の石上貴之さん(右)と石上三千代さん(左)

が伸び悩んでいたこともあり、今回の企画は大変嬉しく思いました。私たちが担当した新製品開発は「いもけんぴ」。美味しいものを作る志が高い職員にこの企画を伝えたら大喜びでした。

美味しいいもけんぴを作るために素材にもこだわり、吟味をした結果茨城産の北あかりを使用。通常大量生産で作る製品は機械ですべてできますが、私たちはキッチンで工場と同じクオリティのものを再現しなければなりません。特に大変だったのは、揚げたさつまいもを均一に甘い飴に絡ませる工程。飴の温度をこまめに測り、試行錯誤しながら何度もトライしました。



(右)スウェーデン刺繍をする金宮さん。集中力を必要とし、とても繊細な作業工程を進めていく。(上)ボンエルフ職員のみなさんと荒川区社会福祉協議会の担当荒井さん



作業所ボンエルフ
東京都荒川区東日暮里3-8-16
TEL:03-3806-9424

れます。また、集中力が高く作業がとても早いので、仕事の効率が上がり、助かっています。

障がいの度合いによってできる作業は千差万別。ボンエルフでは個性を生かしながら、楽しく活動できるように常に見守り続けています。



サービス管理責任者の桑川和子さん

障がい者支援事業 2つの障がい者支援

情報発信

障がい当事者や障がいのある子どもを育てる親や保護者を支援することを目的として、障がい福祉関連情報の発信と、障がいに関する社会的認知向上に寄与するべく広報誌「MELDIA」を発行しています。

ご家庭で出来る支援や外出機会の創出、福祉サービスの情報、障がい当事者やかかわる人々が「明るい未来」を創造出来るよう、情報発信を通じて支援を行ってまいります。



定期購読申込



直接支援

「あなたの「不安」を「可能性」に変えたい。私たちメルディアでは、「職業能力評価」や「就労訓練」を通じて一緒に悩みや問題を解決し「働くこと」への不安を払拭するためのお手伝いをしたいと考えます。

できることを知り、できることを増やし、自身がやりたいことに取り組める未来を実現するための直接支援が提供できるよう、新たな直接支援サービス「メルディアトータルサポート」を開設し、安心して就労に向かうためのサポートを行っています。



〒110-0005 東京都台東区上野6-2-14喜久屋ビル3F
TEL : 03-6284-4180



©SHONAN BELLMARE

青少年スポーツ支援事業

奨学制度

一般財団法人メルディアでは、個々が置かれている事情、経済的な理由からプロ選手を目指すことを諦めざるを得ない児童、生徒、青少年らの「夢」の実現を応援し、支援するための「奨学制度」を設けています。

奨学生の中でもユース時代から活躍してきた田中聡選手が、奨学生から初のプロ選手として「湘南ベルマーレ」とプロ契約を果たし、2021年からトップリーグでチームの中心選手として活躍しています。

2022年からは田中聡選手に続き、原直生選手がプロ契約しトップリーグの舞台へ羽ばたいています。

お問い合わせはこちら



一般財団法人
メルディア
Meldia Foundation

〒163-0632
東京都新宿区西新宿1-25-1
新宿センタービル32F
一般財団法人メルディア
事務局 宛て
TEL : 03-5381-3213
MAIL : org@gf-meldia.com

ホームページ

一般財団法人メルディアのホームページでは当財団の取り組みやイベント情報を掲載しています。Twitterでは湘南ベルマーレ観戦チケットプレゼントやスポーツ支援情報を発信しています。是非、ご覧ください。

ホームページ



<https://meldia.org/>

Twitter



https://twitter.com/gf_meldia



MELDIA つなぐ

明るい未来の実現を目指して人と社会と福祉をつなぐ



寄り添ったトータルサポートを目指して

一般財団法人メルディア 事務局 永野周平

「MELDIA」のリニューアルにあたって

2017年に「MELDIA」を発刊して5年目を迎えました。障がい当事者やその家族、それをサポートする施設等を中心に、生活に密着した情報をお届けしたいという思いで続けてこれたのも、読者の皆さまの応援があったからこそと感謝しております。この誌面を借りて御礼申し上げます。

日本のみならず世界全体がコロナ禍で自粛を強いられ、今までのように外出できず家庭にいる時間も増えたことと思います。外出の機会が少なくなると、周りとの触れ合いが減り、脳への刺激も少なくなるといわれています。今回の誌面リニューアルにあたり、今まで以上に読者の皆さまに密着した情報をお届けしたいと、**声**がいをもつ芸術家のインタビュー記事や、親子で楽しみながら家庭支援の情報ともなるマンガを掲載することで、今まで以上にビジュアル的要素にもこだわっています。

ほかにも、芸能人の方をゲストに迎え体験談をお話しいただいたり、障がいというハンデをプラスに変

え企業で頑張っている人や、工夫して就労の場を提供する企業にフォーカスをあて紹介します。毎回大好評の水越けいさんのコラムも引き続き連載いたします。誌面を通してみなさまが、「困っているのは自分だけじゃないんだ」という気づきと、読んでためになり楽しく充実した時間が過ごせるきっかけになればと思っております。

今後のメルディア財団活動予定

昨年に引き続き、3つの支援事業の柱を掲げ活動してまいります。

◎情報発信:「MELDIA」

リニューアルした広報誌「MELDIA」では、障がい当事者の方やそのご家族、支援に関わる方々へ有益な情報をお届けし、誰もが「明るい未来」を創造できることを目的に発行を続けてまいります。

◎直接支援:障がい福祉サービス

障がいがあっても「仕事に就きたい」「社会に参加したい」方を対象に、相談、職業能力評価、就労訓練等を通して悩みや問題を一緒に解決し、自信をつけ自分がやりたいことに取り組めるようサポートしています。

◎青少年スポーツ支援

経済的な理由や家庭の事情で、プロの選手を目指すことができない子供たちのための支援事業です。とくにサッカーに力を入れており、ユース時代から活躍してきた2選手も現在プロのサッカー選手として活躍しています。詳細はP29を参照してください。





たのしめてるか。

Bellmare



湘南ベルマーレ ホームゲーム観戦チケット プレゼント

療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と、同行者の方1名を湘南ベルマーレのホームゲームに抽選でご招待いたします。

本ページにて募集の「湘南ベルマーレホームゲーム観戦チケットプレゼント」についてはリーグおよび、クラブの発表情報に合わせ、以下のURLにて詳細を随時お知らせいたします。

一般財団法人 メルディア HP <http://meldia.org/>



STEP 1 応募

HPの応募フォームへ
必要事項をご入力

http://meldia.org/bel_present/
応募フォームはこちら▼

ホームページ
からも
応募できます



STEP 2 メール

応募完了メールが
届いたら受付完了

ドメイン指定をしている方「org@gl-meldia.com」を指定メールアドレスに追加してください。応募後、5日経っても応募完了メールが届かない場合は恐れ入りますが下記お問い合わせ先までお電話ください。よろしくお願いいたします。

STEP 3 抽選

当選者へメールで
ご案内いたします。

当選者の方へ当選メールを送信します。メール内でチケットの受け渡し方法についてご案内します。当選発表はメールの送付をもってかえさせていただきます。

STEP 4 観戦

スタジアムへGO!

どうぞ観戦を
お楽しみください!



編集スタッフ試合初観戦日記!

3/12 @レモンガス
スタジアム平塚



詳細は湘南ベルマーレHPをご覧ください。
JR東海湘南平塚駅、小田急小田原線伊勢原駅よりシャトルバス、路線バス運行。
湘南平塚駅1Cより湘南平塚大橋、国道129号線徒歩約15分(国道129号線に徒歩「総合公園」の看板あり)
駐車場は台数に限りがありますので予めご了承ください。

一般財団法人メルディア 事務局
TEL:03-5381-3213
受付時間 月~金曜日/9:00~18:30

PRESENT

A 1名様
松元伸乃介 ぬりえ

B 1名様
松元伸乃介 マスク

C 1名様
松元伸乃介 パズル

D 1名様
松元伸乃介 パズル

E 5名様
Eye Contact
最強のセラピードッグ
~名犬チロリ写真集~

F 3名様
絵本 おやすみとおはようのあいだ
(サイン入り)

G 3名様
うちの子、へん?

応募方法

下記のURL、または右のQRコードから必要事項をご記入の上、ご応募ください。当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

<https://forms.office.com/r/Eb724mJM78>

vol.49 MELDIA 2022 MAY

発行元 / 一般財団法人メルディア
 発行人 / 小池 信三
 事務局 / 榎本 喜明、鷲坂 浩章、永野 周平
 企画・編集・印刷 / 株式会社 ウィル・コーポレーション
 営業担当 / 矢口 千絵 (株式会社 ウィル・コーポレーション)
 C.ディレクター / 正木 弘 (株式会社 ウィル・コーポレーション)
 アシスタント / クレーシ・ミン (株式会社 ウィル・コーポレーション)
 撮影 / 菅原 大祐 (D-STUDIO)、山下 みどり
 デザイン / 瀧美 真里子
 ライター / 前野 千保 (TCプランニング)
 協力 / MELDIA GROUP、株式会社 三栄建築設計、メルディアトータルサポート上野、一般財団法人 国際セラピードッグ協会、ワタミ株式会社、株式会社 ブックハウスカフェ、株式会社 扶桑社、社会福祉法人 荒川区社会福祉協議会 ※敬称略/順不同

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、政府ならびに東京都によるガイドラインを遵守し、衛生面には最大限の配慮をしたうえで人的距離を十分に確保しながら取材を行っています。また、取材中はマスクやマウスシールドを装着のうえ、飛沫防止用のアクリル板などを設置し、適時に換気をしながら取材を行っています。

広報誌MELDIA Vol.49/
2022年5月25日発行
本誌の無断転載・複製を禁じます。
2017-2022©All Rights Reserved.
一般財団法人メルディア/広報誌MELDIA MELDIA GROUP 株式会社 三栄建築設計

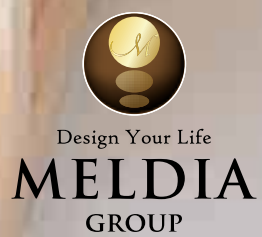
次号予告
MELDIA
vol.50
2022年7月25日 発行予定

一般財団法人メルディア
〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1
新宿センタービル32F
一般財団法人メルディア 事務局
TEL:03-5381-3213

同じ家は、つくらない。

広報誌 MELDIA VOL.49 TAKE FREE

広報誌 MELDIA VOL.49 2022年5月25日発行 (隔月1回25日発行) 第49号 通巻49号
発行元 / 一般財団法人XILテイクフリー事務局 〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F



三栄建築設計

〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F
<https://san-a.com>

OFFICIAL SNS



詳しくは、三栄建築設計公式サイトまで